

2024 全然堂歳時記 新年

【初日2】

一月三日 18時 2024年 1月3日 発

10行 2段 12ポ 欄 10

初日の出まへの家々、道、車初日の出まづ鉄塔に電柱に
初日の出待つこともなく配達へかなたより一人一人に初日かな
天の戸も雨戸も開けよ初日の出我らみな輝き立てる初日の出
~~日~~の丸の天いなるかな初日の出ふりむけば影の長さよ初日の出
初日待つ黒く大きく富士の山空腹の軽き体や初日の出
ぽつかりと初日を生めり海の上初日の出走り出したき思ひあり
初日の出東の空の美しや宿の湯に裸一貫初日浴ぶ
赤々と見えるて遠き初日かなまふは鳶ひそむは鯉や初日の出
富士つひに初日を浴びて輝けり初日の出鴉も飛んで来りけり
初日の出この日はかりは手を合はせ鶏鳴に代り猫鳴く初日の出

①

天照大神様 初日の出 城壁の裾の裾まで 初日影
 初日待つ黒く大きく富士の山 かなたより一人一人に 初日かな
 初日の出まへの家々、道、車 選ばれし勇者のごとく 初日浴ぶ
 初日の出待つこともなく 配達へ 我らみな輝き立てる 初日の出
 天の戸も雨戸も開けよ 初日の出 初日の出 この日ばかりは 手を合はせ
 ぽつかりと 初日を生めり 海の上 ぶりむけば 影の長さよ 初日の出
 赤々と 見えるて 遠き 初日かな 空腹の軽き体や 初日の出
 初日の出 東の空の美しや 初日の出走り出したき思ひあり
 富士つひに 初日を浴びて 輝けり まふは鶴ひそむは鯉や 初日の出
 初日の出まづ 鉄塔に電柱に 鶏鳴に代り 猫鳴く 初日の出

2024 全然堂歳時記 新年

【初日2】

一月4日 時20時

2024年1月5日 発

10行2段12ポ 桐10

天照大神様

待つ

初日の出城壁の裾の裾まで初日影

初日待つ黒く大きく富士の山かなたより一人一人に初日かな

初日の出まへの家々道、車選ばれし勇者のごとく初日浴ぶ

初日の出待つこともなく配達へ我らみな輝き立てる初日の出

天の戸も雨戸も開けよ初日の出初日の出この日ばかりは手を合はせ

ぽつかりと初日を生めり海の上ふりむけば影の長さよ初日の出

赤々と見えゐて遠き初日かな空腹の軽き体や初日の出

初日の出東の空の美しや初日の出走り出したき思ひあり

富士やいま初日の中に荘厳すまふは鶴ひそむは鯉や初日の出

初日の出まづ鉄塔に電柱に鶏鳴に代り猫鳴く初日の出

初日の出まづ鉄塔に電柱に鶏鳴に代り猫鳴く初日の出
3:46 am

浴の音

天照大神様 初日の出 新聞の重きを配る 初日かな
 初日待つ黒く大きく富士の山 選ばれし勇者のごとく 初日浴ぶ
 初日の出までをぬくぬく家の中 初日の出この日ばかりは手を合はせ
 天の戸も雨戸も開けよ 初日の出 ぶりむけば影の長さよ 初日の出
 ぼつかりと初日を生めり 海の上 空腹の軽き体や 初日の出
 赤々と見えぬで 遠き初日かな 初日の出走り出したき思ひあり
 初日の出 東の空の美しや まふは鶴ひそむは鯉や 初日の出
 初日の出 たちまち富士を荘厳す 鶏鳴に代り 猫鳴く 初日の出
 初日の出 まづ 鉄塔に電柱に 盆栽の松竹梅に 初日の出
 城壁の裾の裾まで 初日影宿の湯に 初日を浴びて 素つ裸

5

~~新聞あわて~~

9.5に

天照大神様 初日の出 ぶりむけば影の長さよ初日の出
初日待つ黒く大きく富士の山空腹の軽き体や初日の出
初日の出までをぬくぬく家の中 初日の出走り出したき思ひあり
天の戸を侍女が引き開け初日差す 身を清め大浴場に初日浴ぶ
ぼつかりと初日を生めり海の上高く飛ぶ鳥の翼や初日の出
初日の出東の空の美しや まふは鶴ひそむは鯉や初日の出
初日の出ただちに富士を荘厳す 鶏鳴の如く猫鳴く初日の出
城壁の裾の裾まで初日影 盆栽の松竹梅も初日浴ぶ
選ばれし勇者のごとく初日浴ぶ 公転のとある地点の初日かな
初日の出この日ばかりは手を合はせ 異教徒も遍く照らす初日かな